

分科会名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">総合的な学習の時間</div> 令和元年6月5日(水)	会 場 川崎市立大島小学校 助言者 川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間 教育研究会会長 赤松 理 川崎市総合教育センター 石井 芳宏 授業者 川崎市立大島小学校 牧寺 広作 幸村 美歩 司会者 川崎市立小倉小学校 船木 愛 記録者 川崎市立古川小学校 伊藤 利恵 世話人 浜崎 俊治 出席者数 131名
--	---

1 提案の概要

おおしまPOWERプロジェクト ～力あふれる大島のまち～

「地域の『人・もの・こと』に進んでかかわり、まちのことを具体的に把握することによって、まちのよさや課題を知り、自分にできそうなことを計画し実行することができるようにする。」という単元目標で行われた。3年生は社会・理科・総合的な学習の時間がはじまるということで、子どもたちが思いや願いを膨らませ、必要感をもった単元を構成していた。「パワー」というテーマで、まちの「パワー」を確かめたり、新しい「パワー」を発見したりすることで、自分ができることを考え、実践していく。本時の学習は、田島支所の方のお話を伺ったことを振り返り、今後の活動を考えていた。

2 研究協議の概要

- ・ 付箋を貼る活動で、自分の意見をたくさん出すことのよさを実感し、子どもたちの意欲を感じることができた。友達の意見を聞いているのがよい。
- ・ 2年生の生活科の学習を生かし、単元をつくっていた。地域の中で、地域と共に学ぶことで、地域の子どもたちが育つ。大島小学校では、子どもの実態に合わせて地域から材を見つけて単元をつくることを継続して行っている。
- ・ 教師の声かけで、グループの友達同士のつながりや、子どもたちの言葉への価値づけができていた。声かけによって、付箋に書く内容が「一緒に〇〇する。」という内容へと変わっていった。

3 今後の課題

- ・ 子どもたちが生活している地域の中で材を見つけられるとよい。地域には、環境、福祉を学べる材もある。地域の中に学びを広げていくことで、地域の方も子どもたちに働きかけてくれて、地域がよりよくなっていく。低学年からこの関係を築いていくことが大切。
- ・ 自分の学びは自分で開く、自分の課題は自分でつくることが大切。子どもが自ら学びを開くことができる材を見つけられるとよい。
- ・ 70時間のダイナミックな大単元構想を考えていくことが大切。

4 石井指導主事より

- ・ 学習の中で、教師がねらいに沿って意図的な声かけをしていた。子どもに違う視点で考えることを促していた。
- ・ 「パワー」の意味を共有することで、考えの拠り所となっていた。